

エグゼクティブサマリー

都市を不平等やインフラの老朽化から立て直し、気候変動の影響に適応させるには、社会的、生態的、技術的な領域を超えて活動できる新しい形の専門知識が必要である。このような学際的な専門知識は、進化する社会の目標に合わせて既存のインフラ（排水、住宅、道路、景観など）を変革する「グリーンインフラ」を実施する際に特に重要となってくる。このプロジェクトでは、次世代のグリーンインフラを担う様々なバックグラウンドを持つ54名の若手研究者や専門家を招集し、それぞれの研修や専門知識開発の状況を精査しながら、多機能グリーンインフラの導入により都市の回復力（レジリエンス）を構築する方法を共同で検討することを目的とした。ここでの質問は以下の通りである。

- グリーンインフラを活用して、複数の、時に競合するニーズを満たすにはどうすべきか。
- この変革の指標となる、将来的目標は何か。その目標の元となる視点や専門分野は何か。
- 不平等で高リスクな現在の景観につながった過去の仕組みにどう挑戦し、どう変革していくか。

学際的グループとして、学会、社会・生態・技術システム（SETS）の枠組みを用いて、より総合的なグリーンインフラのパラダイムへの道筋を見出すためのガイド付きディスカッションや活動に取り組んだ。グリーンインフラにおける持続的な課題を特定し、それに対処するための原則を策定した。

1. グリーンインフラの始動、設計、実施、維持において、旧来技術、スケール、権力を考慮する。
2. グリーンインフラの実施と管理における制度的ガバナンス、目標、および権力構造を特定する。
3. グリーンインフラストラクチャーの始動、設計、実施、維持管理に、コミュニティと場所に根ざしたさまざまな知識を取り入れる。
4. グリーンインフラの社会的、生態的、技術的側面を資源に基づいて優先順位付けする。
5. 地域社会のニーズ、遺産、将来の目標設定に対応するための適応型マネジメントの活用
6. 社会的、生態的、技術的背景の変化を考慮し、グリーンインフラの回復力のある所有と維持に向けた包括的な道筋を築き上げる。

原則1は、グリーンインフラを実現するためにSETSの内外に存在する3つの基本的なプロセスを明らかにするもので、他の原則の基礎となる。これらのプロセスは、グリーンインフラがどのように理解され、設計され、実施され、維持され、どのように発展していくかを定める。これらのプロセスを理解することで、SETSの枠組みの中で、より総合的な成果の評価が可能となる。

- **遺産**：ある地域やそのコミュニティには、歴史（または様々なコミュニティが経験する複数の歴史）があるだけでなく、グリーンインフラの計画と実施のプロセスに影響を与えうる遺産（例えば、都市計画や隔離政策などにおける植民地や人種差別の遺産）が存在する。その中には、人々の場所に対する感覚や幸福感に大きな影響を与えるような歴史が含まれかねない。更に、地域には未来があり、コミュニティはその未来がどうあるべきかという目標を持っている。それは、不公平に対処し是正するためにグリーンインフラが果たすべき役割の重要な指針となる。
- **スケールとつながり**：グリーンインフラの導入には、それが組み込まれる景観のスケールを考慮する必要がある。例えば、各介入活動は緑地ネットワークの一部であり、それはより広い都市全体の集水域に位置し、それ自体がより大きな土地利用のネットワークの中に組み込まれている。したがって、地域のグリーンインフラへの介入は、入れ子状になった階層の一部であり、規模を超えたつながりによって特徴づけられ、包括的な計画プロセスにおいて考慮される必要がある。

また、組織や制度のさまざまなスケールなど、社会的なスケールも重要な役割を担う。グリーンインフラプロジェクトは、様々なレベルの利益団体に加え、コミュニティ団体、自治体の計画部署、地域当局、国家機関など、しばしば重複した権限を持つ制度構造の中に組み込まれる。グリーンインフラの計画、実施、管理のプロセスに影響を与える社会制度は複雑であり、管理の規模と管理される SETS プロセスの規模との間に不整合が生じることがある。

- **権力**：グリーンインフラは、それが属する地域社会によって形成され、またその地域社会を形成する、生きた社会構成物として機能している。グリーンインフラプロジェクトには、住民一人ひとりから政府省庁、地域の利益団体から国際的な組織まで、影響を受ける、あるいは関与する可能性のある多数のステークホルダーが存在する。ステークホルダーは極めて多様であり、グリーンインフラプロセスにおける意思決定は、力関係と非対称性によって特徴付けられる。グリーンインフラのプロセスは、根強い権力的不平等を積極的に認識し、是正するように努めなければならない。

各原則は、この 3 つのプロセスの上に成り立つ。これらは、グリーンインフラが、より強靱な都市システムを築く上で適切な解決策となり得る *時期*と *理由*を理解するための第一歩となる。本グループは、場所、文化、背景、分野、セクターを超えた人々のネットワークを構築することで、グリーンインフラ地域を形成するための介入へ新たな理解と能力を集約できると信じている。そして、本原稿で紹介した原則に対する対話や批評ができればと願う。継続的な協力関係を通じて、社会的、生態的、技術的に統合されたシステムとしてのグリーンインフラの変革を進めていきたいと考えている。